学校番号	１０１２

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	工芸Ⅲ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

科学・技術の発展する現代社会における工芸の意義・役割を考える。先人の残した技術や知恵の蓄積をどのようにして自分の中に取り入れるのか。自分の手によって作り出すことを基本に学習する。美術館、博物館、ギャラリー等へ足を運び、実際の作品に出会う機会を作ることで、自己のテーマを発見し制作につなげる。
高校展など展覧会への出品を目標にした制作を通じて、より完成度の高い制作をめざす。

2　学習の到達目標

・主題の把握からデザインに至るまでの段階を学び、材料となる素材、技法、構造及び手順を理解し、自らのアイデアを形にしていく造形能力を高める。
・表現と鑑賞の能力を高めるとともに、個別の感じ方や考え方に応じて知識を活用した表現ができる。
・創造活動を通して、表現と鑑賞の能力を一層高めると共に物づくりについての理解を含め、美術文化を尊重する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め、意図に応じて制作方法を工夫できる。 ・造形的な見方、考え方を働かせ、個性豊かで創造的に表すことができる。	・造形的な良さや美しさ、表現の意図や創意工夫、自己の思いや体験、社会や生活環境、見る人や使う人の願いなどについて考え、個性豊かで創造的な発想ができる。 ・用途や機能と美しさの調和を考え、素材の特質や表現の多様性などを生かした作品の構想を練り、表現できる。	・主体的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、感性と美意識を高め、工芸や工芸の伝統的文化と幅広く関わろうとし、見方や感じ方を深めたり工夫したりできる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	陶芸照明、花器（選択）	オリエンテーション 課題「陶芸照明、花器（選択）」 デザイン 成形 器面調整 加飾 指導 練習 成形 着色 施釉 焼成（窯づめ体験）	a: 身近な生活や自己の思い、用途と美しさを考えて照明、花器を制作することに関心を持ち、主体的に発想して作品の構想を練ったり、制作方法を理解し、創意工夫して制作したりしようとしている。 対象を見つめて、形体の特徴をつかみ、構成などを工夫している。 b：目的や意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、目的や計画を基に表現している。 c：作者の意図や表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取り、生活や社会を心豊かにする工芸の働きや作品などついて理解を深めている	アイデアデザイン 作品	アイデアデザイン 作品	作品 鑑賞・振り返りシート
2学期	卒業制作	卒業制作（自由制作） 計画 材料の吟味 材料調達 試作 ・卒業制作 （制作開始）	a: 工芸の多様な表現に関心を持ち、これからの学習に意欲を高めている。 感性や想像力を働かせて自然や素材、身近な生活や自己の思いなどから心豊かに発想し、用途と美しさの調和を考えて表現の構想を練っている b：目的や意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、目的や計画を基に表現している。 c：作者の意図や表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取り、生活や社会を心豊かにする工芸の働きや作品などついて理解を深めている。	アイデアデザイン 作品	アイデアデザイン 作品	作品 鑑賞・振り返りシート

3学期	卒業制作	・卒業制作 鑑賞	a:生活や社会を心豊かにする工芸の働きやデザインの目的や条件、機能や用途などを考えて表現することに関心を持ち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。 感性や想像力を働かせて自然や素材、身近な生活や自己の思いなどから心豊かに発想し、用途と美しさの調和を考えて表現の構想を練っている b:目的や意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、目的や計画を基に表現している。 c:作者の意図や表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取り、生活や社会を心豊かにする工芸の働きや作品などついて理解を深めている	作品	作品	作品 鑑賞・振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度